

6月4日から「歯と口の健康週間」

国民の幸せのために

対 談

県歯科医師会長

衆議院議員

村山利之氏 × 福田達夫氏

人口減少、超高齢化により経済の縮小や国力の低下などが危惧される中、対策の一つとして「健康寿命の延伸」が叫ばれている。平均寿命との開きは10～12年。これを縮めるため、「骨太の方針」をはじめ国も本腰で歯科口腔保健の推進に力を入れ始めた。6月4日から「歯と口の健康週間」が始まる。そこで「健康、そしてその先にある幸せ」をテーマに、県歯科医師会長の村山利之氏と衆議院議員の福田達夫氏が語り合った。



●息子と一緒に歯磨き

6月4日から歯と口の健康週間が始まります。福田議員は「この家庭で気を付けていることはありますか。福田氏 小学5年生の息子がいます。息子が幼かった頃は、一緒に歯磨きをしたり、妻に代わって仕上げ磨きをしてあげることがありました。狭いながらも、楽しい我が家という言葉を好きで、家族との時間を大切にしています。私自身は母に「歯を大切にしろ」といわれたことが、歯磨きを一生懸命にやっていたことが、歯磨きを減らした結果、むし歯は減少しました。」

●健康長寿の時代へ

かつて「むし歯予防」と呼ばれていた「6月4日」が持つ意義は、時代と共にどのように変化したのでしょうか。村山会長 私の幼少の頃はむし歯の洪水といわれた時代で、むし歯が10本以上もある子供たちが診療所に入らずに表に並んで待っていた光景を覚えています。家庭、学校、行政が一体となり、国を挙げて予防に取り組んだ結果、むし歯は減少しました。その後、成人の歯周病が注目されるようになり、口の健康が、歯の衛生状態が悪いと、歯を失うばかりか、歯周病の原因菌が全身に悪影響を及ぼして健康を損なうことが分りました。その対策が進められ、超高齢社会を迎えている今、口を健康に保つことが健康寿命の延伸につながるという考えが、歯と口の健康週間を通じて広まっています。

地域の輝きを支える 健康 しっかり噛んで 若返り

●人々の暮らしを守る



お2人はそれぞれの立場で、国民の幸福の実現のために尽力されています。福田氏 いつも仕事を考える基準は「人々の健康」「生きがい」一人がまず健康であ

り、生きがいを持って安心して働けるから、地域は輝きます。こうした地域が集まって、この国の真の輝きがあると考えています。昨年の8月以来、防衛大臣政務官を務めておられますが、半面

アップされています。国民の健康の保持増進、国民の幸せのために「歯と口の健康週間」がある、そんな時代が到来したといえます。健康寿命と歯との関わりを詳しくお聞かせください。村山会長 歯周病は、糖尿病をはじめ多くの病気に深く関与しています。口の中の細菌(炎症性物質)が歯茎などから血管に入り、動脈硬化が進んで細い血管、毛細血管から詰まりやすく、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞、さらには脳血管性認知症のリスクが高まります。また、糖尿病との関連が深いアルツハイマー型認知症にもなりかねません。また、誤嚥性肺炎の原因となる細菌の多くも歯周病菌です。一方、噛むという行為は、食べる、飲み込む、話す、笑うという

「高崎の自宅」と私の自宅が近いせいもある。近所のスーパーマーケットで夜、買い物をして帰る時に時々お会いすることがあります。私たちが政治家と歯科医師と立場こそ異なりますが、地域の一住民という点では同じです。村山会長 福田さん、お話を聞くと、政治に對する信頼を取り戻すために、祖父(福田田村去元首相)が好んで使っていた言葉「政治は最高の道徳である」を家訓とし、政治家としての責務を果たしていると感じています。村山会長 福田さんが冒頭で好きだとおっしゃられた「狭いなが

口腔機能につながります。両側の奥歯でしっかり噛むと、集中力や記憶力が高まったり、転倒しにくくなるので、現在、スポーツや介護現場などの分野で注目されています。また、寝た取りの人が口から栄養を取り入れるという人間本来の機能を取り戻すことで、起き上がりやすくなり、立って歩けるようになった、という報告も数多くあります。「健康寿命」を延ばすためにも、歯と口の健康づくりは、口の中の細菌を減らすこと(噛むこと)、噛めるようにすることの2本柱が大切です。福田氏 興味深い話です。人体には、まだまだ説明されていない自己防衛力が備わっているのですね。そのことを念頭に置き、私も「骨太の方針」をはじめ「健康」を後継いでおられますか。福田氏 母親の姿を見て「これは手伝わなければ」と思ったのがきっかけでした。毎朝私たちが子供の面倒を見てから父を送り出し、自分自身は地元の夕方には帰ってきて主婦に戻る。端から見ていても、大変な仕事は皆さんにとって、もっと身近で、もっと良い意味で使える存在になるべきだと、特に最近強く思うようになりました。村山会長 今も昔も歯は仁術。口の中は「小さな宇宙」であり、歯科医師の仕事にやりがいを感じています。今後、お2人が目指すところは? 村山会長 人口減少の局面下、日本が活力を維持して今後とも輝き続けるためには、一人一人が健康で長生きすること、つまり健康寿命の延伸が鍵を握ると考えています。「富国強兵」ならぬ「富国強民」で乗り切れるのではないのでしょうか。最近「骨の細胞が若返り物質を出す」ということが分かっています。たまたま寝た取りになってしまった高齢者が、若返り物質を出して世界のために頑張りたいと希望しています。

●今こそ「政治は道徳」

も少し具体的に話してください。福田氏 まず話を聞く。お話を聞くと、政治に對する信頼を取り戻すために、祖父(福田田村去元首相)が好んで使っていた言葉「政治は最高の道徳である」を家訓とし、政治家としての責務を果たしていると感じています。村山会長 福田さんが冒頭で好きだとおっしゃられた「狭いなが

頭の骨に力が加わると、骨の細胞から免疫細胞や筋力など若さを保つ力のある「メッセージ物質」が出ます。また、歯が失われると、義歯がなければ間接的に骨に力が加わります。群馬県歯科医師会は県行政と手を携えて、口腔保健の推進に力を入れています。福田氏 少子高齢化が進み、今後さらに、人口全体に占める若い世代の割合の低下が見込まれます。しかし、真に豊かな暮らしを実現するには、若い世代の存在、若い力はとても重要です。若者の多くは、将来の生活に不安を感じているのではないのでしょうか。次代を担う子供たちのためにも、誰もが夢を抱ける。そして、その夢が実現する社会をつくりたいと考えます。村山会長 昨年6月9日の臨時閣議で国の経済財政運営と改革の基本方針となる「骨太の方針」に「歯科診療の充実」という文言が明記されました。福田氏は最近、別の意味で「骨太」になってきたと感じます。よく歯を磨き、しっかりと噛むことで、さらに「骨太の政治家」となり、地球市民として群馬、日本そして世界のために頑張りたいと希望しています。

●今も昔も「医は仁術」

健康でなければ仕事に全力で取り組めませんね。ところで2人とも父親の後は継いでおられますか。福田氏 母親の姿を見て「これは手伝わなければ」と思ったのがきっかけでした。毎朝私たちが子供の面倒を見てから父を送り出し、自分自身は地元の夕方には帰ってきて主婦に戻る。端から見ていても、大変な仕事は皆さんにとって、もっと身近で、もっと良い意味で使える存在になるべきだと、特に最近強く思うようになりました。村山会長 今も昔も歯は仁術。口の中は「小さな宇宙」であり、歯科医師の仕事にやりがいを感じています。今後、お2人が目指すところは? 村山会長 人口減少の局面下、日本が活力を維持して今後とも輝き続けるためには、一人一人が健康で長生きすること、つまり健康寿命の延伸が鍵を握ると考えています。「富国強兵」ならぬ「富国強民」で乗り切れるのではないのでしょうか。最近「骨の細胞が若返り物質を出す」ということが分かっています。たまたま寝た取りになってしまった高齢者が、若返り物質を出して世界のために頑張りたいと希望しています。



県歯科医師会の村山利之氏(左)と福田達夫衆議院議員(右) 衆議院第一議員会館(千代田区永田町)

平成30年度 群馬県 歯と口の健康週間

県民公開講座

『あいうべ体操』があなたと家族の健康を守る

—— 口呼吸は万病のもと ——

日 時 平成30年 5月26日(土) 午後2時～4時

場 所 群馬会館 前橋市大手町2-1-1 [定員400名]

お問い合わせ 公益社団法人 群馬県歯科医師会 TEL027-252-0391

講 師 みらいクリニック 院長 今井一彰先生

主催：群馬県・群馬県教育委員会・群馬県歯科医師会 後援：群馬県医師会・群馬県薬剤師会

群馬県のマスコット「くんまちゃん」